

除排雪事業に関する一般質問のポイント ～市民の安全・安心な冬の暮らしのために～

① 県との連携

現状・問題

県道と市道の交差点で、県と市の除雪のタイミングが異なり、置き雪や段差が発生。市民から多くの苦情が寄せられている。

県道

市道

段差・置き雪

議員の質問・提案

- 改善されていない箇所の洗い出しと対策を。
- 県と市で情報を共有するシステムをつくり、連携を強化すべき。
- 県道尾上日沼線の八幡崎区間の早急な改善を。

市の答弁（対応方針）

- 基本的には遅い時間帯に作業した業者が対応するよう指導している。
- 県は路線延長が長く時間調整は難しいが、今後も県と調整し、解消に向けて取り組む。
- 八幡崎区間は県も把握しており、必要に応じて排雪を実施。今後も小まめな拡幅・排雪を強く要望する。

〈県道尾上日沼線 八幡崎区間（イメージ）〉



② 雪寄せ場の管理

現状・問題

交差点付近などの雪寄せ場で見通しが悪くなり、交通事故の危険がある。

見通しが悪い

議員の質問・提案

- 危険な雪寄せ場や路上・路側を重点排雪箇所としてマップ化し、排雪基準・ルールを作成すべき。
- 市民や町会の要望がなくても市や除雪業者が自主的に排雪できる仕組みを。

市の答弁（対応方針）

- 雪寄せ場は作業効率を考え除雪業者が確保しており、固定されていないため図面化はしていない。
- 今後は、業者に渡す路線網図に記入し、報告の義務を科す。
- 例年、パトロールや業者からの情報を基に拡幅除雪と排雪を組み合わせて実施する。

〈雪寄せ場マップのイメージ〉



③ 除雪作業の見える化（GPS導入）

現状・問題

大雪時に工区によって除雪の遅れが発生。市民が間口の雪を片付けても、その後の除雪で再び置き雪されるなどの苦情が多い。

議員の質問・提案

- GPSを活用した除雪機械運行管理システムを導入し、作業の進捗を見える化するべき。
- 遅れている工区に応援を出し、除雪時間の短縮を。
- 市民からの問合せに迅速に対応でき、職員や業者の事務負担も軽減できる。

市の答弁（対応方針）

- GPSによる進捗管理や路線管理の適正化など、多くのメリットがある。
- システムの機能により導入費用に開きがあるため、近隣市町村の導入状況や使用実績を参考に、当市でも導入に向けて検討する。

〈GPSによる除雪管理のイメージ〉



④ 高齢者・障がい者世帯等への除雪支援

現状・問題

町会の協力に頼る現在の仕組みは、高齢化や人手不足により限界。市民からの要望は非常に多い。

高齢で雪の片付けができない...

議員の質問・提案

- 町会や地域任せでは限界がある。
- 喜多方市のように、利用者の一部負担と市の補助で除雪業者が作業する公的サービスへ制度を見直すべき。
- スノーバスターズや小規模除排雪事業を拡大できないか。

市の答弁（対応方針）

- 町会への奨励金（地域コミュニティ育成事業）や、社会福祉協議会の小規模除排雪事業を実施している。
- 今年度は29町会で実施。
- 平川市ボランティア連絡協議会のスノーバスターズにより屋根雪を含む宅地内の雪処理も実施。
- 今後も協力体制の実情を把握し、当市独自の最適な事業を確認しながら進める。

〈喜多方市の支援制度（イメージ）〉



⑤ 除雪業者の技術・技能の均一化

現状・問題

工区によって除雪業者の技術にばらつきがあるとの声。また、除雪で器物を損壊しても連絡せず、修理しない業者があるとの指摘。

器物損壊の連絡がない

議員の質問・提案

- 定期的な講習会の受講と受講管理の徹底を。
- 工区情報の再確認や変更時の引継ぎを徹底すべき。
- 器物損壊時の報告を義務化し、連絡しない業者にペナルティーを科すなどの対策を。

市の答弁（対応方針）

- 今年度より講習会を実施しており、今後も継続する。
- 日本建設機械施工協会東北支部の除雪講習会への受講を促す。
- 器物損壊は速やかに報告することとしている。気づかない場合もあるため、除雪後に再確認し、漏れがないよう徹底していく。

〈技術の均一化と品質管理のイメージ〉



議員のまとめ（再質問）

- これまでと同じ答えではなく、結果を出してほしい。
- 危険箇所のマップ化や対策の進捗を市民に示すこと。
- 見える化、支援制度の拡充、品質管理の強化など、真剣に取り組み、市民の不満を解消してほしい。

今後の方向性（市の姿勢）

- 県との連携強化、GPS導入の検討、支援制度の見直し検討、講習会の継続などにより、除排雪事業の改善に取り組む。
- 市民の安全・安心な冬の暮らしのため、引き続き検討を進める。

